

お客様とキタムラをつなぐコミュニケーション情報誌

カメラのキタムラ カメラ&ビデオのビッグチェーン  
〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1  
☎045-476-0777

カメラの  
キタムラ®

平成8年9月1日発行  
季刊第18号

# 写真友会

## Vol.18 AUTUMN

特集 **雅** みやび

### 豊かな自然の趣に 見い出された心の彩り

竹内敏信氏インタビュー

.....  
完全保存版 フィルム特集

秋空の澄んだ青色と、カエデの赤い紅葉のコントラストが目鮮やかに映った。そこで、PLフィルターで空の濃度を高めて、両者が互いに引き立つようなアングルを選んで撮影。  
■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF28～80mmF2.8 4L シャッタースピード：1/60秒 AE フィルム：RVP PLフィルター使用  
撮影地：北海道上士幌町 〈撮影〉竹内敏信氏





紅葉といえばやはりカエデの色合いが一番いい。カエデの種類によって、葉の大きさ、色合い、紅葉時期などが変化して、長い期間紅葉撮影の被写体となる。  
■カメラ：ペンタックスZ1-P レンズ：SMCペンタックスA 80~200mm F2.8 シャッタースピード：1/125 AE +1/3EV補正 フィルム：RVP 三脚使用 撮影地：岩手県川井村 〈撮影〉竹内敏信氏

## 特集 雅 みやび 豊かな自然の趣に見い出された心の彩り

竹内敏信氏インタビュー 自然が醸す風景の奥に、人の心で「雅」を感じ取る。

キタムラがお薦めする「紅葉の雅」撮影ポイント

完全保存版 フィルム特集



「光冠」高積雲などの雲が太陽の下を通った時に、太陽の周りにできる七色の光の輪。西洋では「黄金の羊」と言うそうだ。天気が下る時に現れることがある。  
■カメラ：ペンタックス6×7 レンズ：105mmF2.4 絞り：f11 シャッタースピード：1/250(-1.5EV補正) フィルム：RFP 三脚使用 撮影地：鎌倉市 〈撮影〉高橋健司氏

連載記事

- 知って得する写真おもしろ話⑩ 失われた写真染色の世界 ..... 11
- THE フォトワールド⑥ 「雲」を撮る 高橋健司氏インタビュー ..... 12
- メーカー歴史探訪⑤ ミノルタ編 ..... 14
- フォトライフ ステップアップレッスン⑥ レンズは撮影目的をしっかりと選ぼう ..... 16
- 第4回全国春の花フォトコンテスト 入賞作品発表 ..... 20
- 読者のページ 写友缶ふれあい広場 ..... 28
- プレゼントが当たる! クロスワードパズル ..... 28
- 編集後記 ..... 28



(CONCEPT: TOTAL BALANCE)



「使いやすさ」の意味は、人によってそれぞれ違う。それがαの結論です。

それは、スムーズで、しかも素早い操作のための操作ボタンの独立と的確な配置。ボタンやダイヤルの位置や機能を一度覚えれば、ファインダーを覗いたまま、スムーズに、しかも素早く操作できる。それがα-707siの最大の特徴です。撮影に必要な情報はすべてファインダー内に表示され、各操作部材も機能的にレイアウト。さらに、使用頻度の高い機能のボタン類を可能な限り独立させることで、シンプルで快適な操作を実現しています。使い込むほどに誰もが実感するこち好さ。それは、高いポテンシャルと使いやすさの両立をめざした、私たちミノルタからのひとつの回答です。



まっすぐな好性能。  
**α-707si**

●ワイドフォーカスエリア(ローカルフォーカスエリア選択可能) ●マルチ動体予測フォーカス制御 ●AF連動コマ/秒連続撮影 ●AF制御自動切り替え ●高感度AF(EV-1~19(ISO100)) ●AF優先/レリーズ優先切り替え可能 ●AF補助機能 ●Pモード(シーン自動判別プログラム)・Aモード・Sモード・マニュアル ●14分割ハニカムパターン測光・スポット測光・中央重点的平均測光・スポットAEL機能 ●シャッター速度1/8000秒~30秒・B ●フラッシュ内蔵(ガイドナンバー12(ISO100・m)・手動アップ/ダウン) ●赤目軽減機能 ●ハイスピードシンクロ(5400HS使用時) ●ワイヤレスフラッシュ(5400HS/xi/3500xi使用時) ●登録機能 ●測光インジケータ ●露出補正 ●フラッシュ測光補正 ●プレビュー機構 ●2コマ多重露光機能 ●ブラケット機能 ●ハイイボインジケータ ●ファインキョードマト焦点板 ●フィルム感度変更記憶機能 ●パノラマ途中切り替え可能 ●アキスタートシステム(ON/OFF可能) ●インテリジェントカード使用可能 ●大きさ:153.5(幅)×98.0(高さ)×71.5(奥行)mm ●重量:605g(電池別) ●希望小売価格(税別) ●α-707si AFズーム24-85mm F3.5-4.5付..... ¥147,000 ●α-707si ボディ..... ¥95,000 ●AFズーム24-85mm F3.5-4.5..... ¥52,000(フード付)・ケース ¥2,000(別販売) ●AFマウントズーム100-300mm F4.5-5.6 ¥70,000(フード・ケース付) ●プログラムフラッシュ5400HS ¥47,000(ケース・ミニスタンド付) ●縦位置コントロールグリップVC-700 ¥18,000 ●ホールディングストラップHS-700 ¥2,000

■α-siシリーズを詳しく紹介したカタログを差し上げます。官製はがきに住所・氏名・年齢・機種名を記入の上、右記までお送りください。〒108 東京都港区高輪2-19-13(NS高輪ビル) ミノルタ株式会社 宣伝部 写友缶係 ●α-siシリーズのお問い合わせフリーダイヤル ☎0120-493-881 ●お客様商品相談窓口 ☎(03)5423-7555 ☎(06)271-2641

# 雅 みやび

特集

## 豊かな自然の趣に見い出された心の彩り

秋風に揺れるススキの穂波は、日本の秋を象徴する美しい風景である。撮影には望遠系のレンズを選ぶこと。背景を単純にすること。逆光で撮影すること。穂波が揃った瞬間がシャッターチャンス。

■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF300mmF2.8L シャッタースピード：1/90秒 AE +1/3EV補正 フィルム：RVP PLフィルター・三脚使用 撮影地：新潟県湯沢町



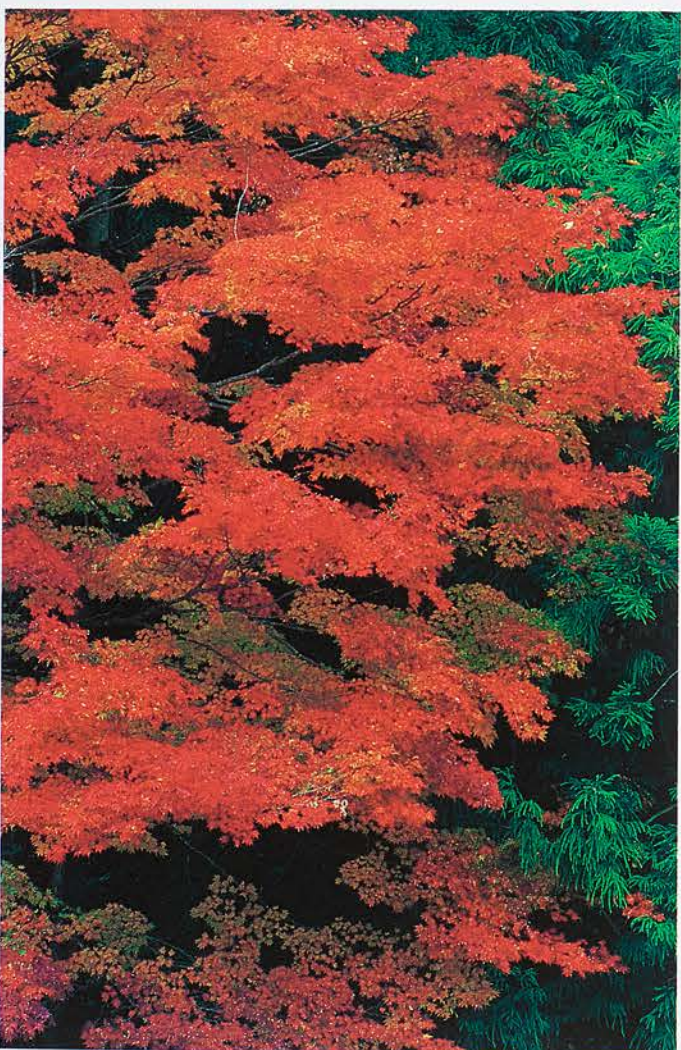
琵琶湖畔の秋の暮れ。太陽が比叡の山脈に消えた後、赤々と湖面が輝き、しばし幽玄な雰囲気が訪れた。時には、夕日が落ちた後でもシャッターチャンスはやってくる。

■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF80mmF2.8L シャッタースピード：1/30秒 AE +2/3EV補正 フィルム：RVP PLフィルター・三脚使用 撮影地：滋賀県湖北町



紅葉がおりなす色模様を、クローズアップして撮影してみる。いい色や形の葉や枝を選びズームで不要な要素を排除してフレーミングする。

■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF80~200mmF2.8L シャッタースピード：1/50秒 AE +2/3EV補正 フィルム：RVP 三脚使用 撮影地：栃木県那須塩原町



ツキミノウの可愛い蕾を花の上から覗いてみた。花びらが円弧を描いて広がってゆくように感じられた。

■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF100mmF2.8マクロ シャッタースピード：1/50秒 AE フィルム：RVP 撮影地：長野県野辺山高原



紅く紅葉したツツジの葉に、霜が付着して初冬のデザインを生み出してくれた。冷たいというような温度感もギリギリで表現する。

■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF100mmF2.8マクロ シャッタースピード：1/20秒 AE フィルム：RVP 三脚使用 撮影地：山梨県忍野村

いい紅葉の写真の基本は、美しい紅葉を探すことにある。どんなに優れた写真家でも、モデルの紅葉が汚れているは、いい結果を期待できないだろう。

■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF80~200mmF2.8L シャッタースピード：1/30秒 AE フィルム：RVP PLフィルター・三脚使用 撮影地：長野県八坂村

祇園祭や葵祭など、特に京都地方に伝わる行事には、日本的なあでやかさと上品さをあわせ持った趣があり、伝統的な美意識としての「雅」を感じずにはいられません。

このことから推測できるように、「雅」とはそもそも平安時代の宮廷文化から育まれた感性で、「宮」または「都」風にふるまうという意味の動詞「みやぶ」からきている言葉です。つまり宮廷らしく優雅な行ないを指し、高度に洗練された作法や、文芸に深く通じた教養などを美德としたものでした。「十二単衣」の「色目」と呼ばれる色彩豊かな装束を幾重にも重ねたその色合いと、それをまとった女性たちのしなやかで優美な立ち居ふるまい。そして彼女らが月や花を眺めては和歌を詠み、随筆や物語を記すようなたしなみを持ったことから、清少納言の「枕草子」や紫式部の「源氏物語」など、優れた文学作品も生まれたのです。

平安時代にこうした「雅」の文化が開花したことには、日本人特有の自然観・季節感が大きく影響していると思われまふ。「古今和歌集」「万葉集」といった歌集や、大和絵などの芸術作品の中に、数多くの自然や植物が鮮やかに描かれていることからわかるように、平安貴族たちは日本の自然環境と伝統を重んじ、自然に親しむ文化の創造を図ったのです。

例えば調度品や衣装などにも季節の植物の模様を採り入れて、外界の景観と調和させ、自然と生活とが一体となった様式美を求めました。季節の移ろいを敏感に読み取り、そこに自身の感情を移入して、自然と心を交わそうと考えたのです。

秋に咲く花の風情や紅葉の彩りに心打たれ、他の季節とは明らかに違った趣を感じ取る。こんな我々の感性の中にはきつと、今も平安の人々の「雅」が、時を超えて脈々と受け継がれているのでしょう。

# 自然が醸す風景の奥に、 人の心で「雅」を感じ取る。

竹内敏信<風景写真家>

日本ならではの趣や気品を備えた美意識「雅」。自然の中では、特に紅葉に代表される秋の風景に、強くイメージされる感性です。四季の自然を、その自然に接してきた人々の「心の風景」として作品に表現し続ける風景写真家・竹内敏信先生に、ご自身の創作活動における「雅」のとらえ方について語っていただきました。

※なお、表紙及び特集ページに掲載した写真は、すべて竹内氏の作品です。



たけうち としのぶ  
1943年愛知県生まれ。名城大学理工学部卒業。愛知県庁勤務を経てフリーとなり、風景写真の第一人者として活躍。今年の9月14日から10月27日まで「さいたま芸術劇場」において、写真展「ウィーンを巡る街とヨーロッパの森」を開催。主な写真集：『天地光響』（講談社）、『欧羅巴』（小学館）、『花祭』（成文堂新光社）、『光と風のヨーロッパ』（玄光社）、『写真・山頭火』（春陽堂）、『櫻』『天地聲聞』（以上出版芸術社）、『竹内敏信集』（新日本企画）など。著書・ビデオ・CD-ROMも多数出版。

もするんです。秋の草花というのは、春のものに比べると全体に地味ですが、それがまた秋の風情を感じさせてくれます。

このような我が国の自然が持つ多様性から、日本人は秋の彩りに対して特別な美意識を感じてきたのでしょう。しかし、ただ紅葉の色が鮮やかだったからそういう感性を持ったのではないと思います。長い冬の後には春の芽生えがあり、緑が輝く夏があり、やがて秋になって樹々が色づくという繰り返しの中で、日本人は自然風土を見続けてきているんです。一年をサイクルとした自然の移ろいを見つめることで、紅々と燃えるような紅葉が、より印象深く感じられるということなんです。

そしてその移ろいの中に、日本人は人生観をも見出し出しているんです。春に生まれて若若しく成長した命が、夏には壮年期に達し、秋に最後の輝きを放って冬には散ってゆく。自分自身の人生に自然をオーバーラップさせて考えたんです。紅葉が散る間際に放つあてやかさや輝きに、日本人は格別の感情、つま

り「雅」を感じていたんですね。そのような「雅」を写真で表現できればいいと、私は常に思っています。

## あらゆる自然や風景に、「雅」は息づいている。

紅葉というのは、植物学的には単に葉の色が変わって枯れてゆくまでの行程にすぎないのですが、その背景には長い時間や歴史文化の中で、日本人が培ってきた雅やかな美意識があるんです。写真のモチーフとしてとらえるなら、手のひらのような葉の形や、黄色から紅へと移行してゆく色合いのグラデーションの美しさに秘められた、繊細な「雅」を撮影者が感じ取り、作品として切り取ることで、「植物の秋」が「人の秋」になるんですよ。伝統的に美意識を自然に託すことに長けている日本人だからこそ、見えてくる風景というものがあるんです。

私の場合はいい作品を撮ろうという以前に、最も自然が変容を見せる秋の姿に「雅」を見

日本人は自然を見つめ続け、秋の彩りに美意識を感じてきた。日本の秋には、独特の彩りや美意識が感じられますが、これらがどこから生まれてきたかと考えると、やはり一番に思い浮かぶのは紅葉の美しさですね。外国にはこれほど色鮮やかに変わる広葉樹類は見当たらないのですが、日本の秋にはカエデやナナカマドなど色づく樹のほか、黄色やだいたい色に染まるものが混ざり合って、実に複雑微妙に山々

を彩っている、独自の世界があるんです。例えばカエデの樹の枝ぶりや葉の姿や並び、そしてその葉が赤く色づいてゆく様、またそれがはらはらと散って地上に落ちた姿、これは誰かが意識して作ったものではないけれど、そこには確かに「雅」が感じられます。

また、野生の草花も日本には数多く棲息し、とてもその名前を全部あげられないほどです。秋の花で特に私が好きなのは、ススキです。ススキは外国の植物にはまず見られないような美しい花穂を付けるので、非常に写真映え



秋も深まってくると、早朝、一面の霜の大地が眼前に広がることもある。注意して霜の風景を観察すると、このような面白い発見ができる。  
■カメラ：ペンタックスZ1-P レンズ：SMCペンタックス100mmマクロ F2.8 絞り：f22 AE  
フィルム：RVP 三脚使用 撮影地：北海道土幌町

つけよう、そして人間の心で美しさや気品を探してやろうという意識を大切にしています。そうすることで、風景や植物たちが持つ「雅」が自分自身の感性に吹き込まれるんです。植物が自然の摂理に基づき、その姿を変えてゆく様を目にすると、時の流れが創り出す変容の美しさ、色合いの見事に心打たれます。そういう自然と直にふれる機会は、今の時代にはなかなか得られないのですが、我々写真家は撮影を通してそれをしているんです。例えば水であつたり雲であつたり、枯れ枝や落ち葉たつて雅やかな瞬間を持っている。野鳥などの生き物や、人間の生活の中に「雅」はあります。それは撮影者の心の持ち方次第で感じられるもの。あらゆるところに「雅」は存在するのだと認識することが大切なんです。どうしてもアマチュアの方々は、いわゆる

「写真観光地」と呼ばれる所に皆一様に向かってしまうようですね。そこが唯一の撮影場所のように思われているのかも知れませんが、それは無数にある撮影場所のひとつにすぎないんです。そういう所には手軽に撮れる、箱庭的にまとまった風景はありますが、良い被写体との巡り合いがあり、自分の心と結びついて作品に表現される」という、写真を撮る上での大切なプロセスが欠けてしまうんです。たとえ裏庭にだって「雅」の世界はあるし、季節の移ろいが醸し出す一瞬の美がある。やはりそれを「写真観光地」に求めるのではなく、あらゆる日本の風景の中に秘められた「雅」を探し出していただきたいですね。

## 目の前にある紅葉の奥には、 百年、二百年前の秋が見える。

私が風景を撮り続ける中で思い至つたのは、「日本人の原風景」というテーマなんです。例えば目の前にある美しい紅葉にも、過去があるわけですね。遠い昔、その樹の先代、先々代の樹も存在したわけで、その紅葉は、日本列島に連綿と受け継がれてきた風景なんです。先人達と同じ風景を見て、同じ気持ちを持し、日本人がその風景に対して伝統的に感じてきたものを解き明かそうというのが、このテーマの意味なんです。現実にはカメラの前にある紅葉の奥に、百年、二百年前の秋が見えるはずだというのが、その基本的な考え方な



撮影を終えて帰路の途中、こんもりとした落葉樹の森に出会った。幸い、樹林の周りが杉林だったため、紅葉そのものが浮き上がって見えた。機分、周りを入れてフレーミングした。  
■カメラ：キヤノンEOS i レンズ：EF 80mm F2.8 L ショッタースピード：1/30秒 AE  
フィルム：RVP PLフィルター・三脚使用 撮影地：福島県猪苗代町

んです。今ここに美しく輝いている秋の草花も、今この瞬間だけ輝いているではなくて、それまでの歴史が、気の遠くなるような長い時間が輝かせているんです。

だから、我々も昔の人達と同じ風景に「雅」を感じているわけで、私はその美しさを写真で表現したけれど、万葉の歌人は歌で表現していたということなんです。もちろん何も表現手段を持たない人達は、その「雅」を心の中にしみ込ませていったでしょうし、それだつて素晴らしい方法だと思えます。



紅葉と水の相性もいい。溪流や湖沼、滝と紅葉をからめて撮ることをお薦めしたい。これは栃木県奥日光の中禅寺湖畔の秋の彩り。  
■カメラ：キヤノンT90 レンズ：FD 80mm F2.0 F4 L ショッタースピード：1/60秒 AE  
フィルム：RFP PLフィルター・三脚使用 撮影地：栃木県日光市

コスモスの花の間へ、広角レンズで思い切って突入する。花=マクロという発想を捨てて花=すべてのレンズで撮ると考えてイメージを広げたいものだ。  
 ■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF20~35mmF2.8L 絞り：f22 AE  
 フィルム：RVP PLフィルター使用 撮影地：長野県南牧村



「雅」とは長い日本の歴史の中で受け継がれてきた美意識ですから、伝統芸能や行事などの文化の中に、それを求めることもできると思います。私もかつて愛知県で「花祭」をテーマに15年にわたって撮り続けたことがありますが、これなどはこの土地に生きる人々が、暮らしの中で彼らなりの「雅」を表現したものでしょう。ただし私自身がイメージする「雅」というのは、こうした土俗的なエネルギーにあふれたものではなくて、もう少し上品や繊細な趣のあるもので、やはり自然風景の中に、それをより強く感じますね。

写真というものには、風景にしても、祭のようなものにしても、ずっと撮り続けることによって初めて得られる、認識させられるこ

美意識を自然に託してきた日本人だからこそ、見えてくる風景がある。



草むらに付いた霧氷がプリズムの役割を果たして、逆光に輝く朝日が七色にきらめいて見えた。  
 ■カメラ：キヤノンF-1 レンズ：FD80~200mmF4L シャッタースピード：1/125秒 AE フィルム：PKR 撮影地：栃木県日光市

とがあるんです。それが私の場合には「日本人の原風景」であつたし、もっと大きくとらえれば、「風土と人間」というのが私の作品すべてに共通したテーマなんです。ですから長い歴史の中で人間と深く結びついた自然風土を、そしてその中に人々がイメージした「雅」の心情を、これからも写真を通して追いつけてゆ

沼や湖沼の風景も、秋の早朝は狙い目となる。静かな水辺を、落ちついた雲田気で撮りたい。  
 ■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF80~200mmF2.8L シャッタースピード：1/40秒 AE フィルム：RVP PLフィルター・三脚使用  
 撮影地：新潟県豊栄市



紅葉の撮影では、樹種による色合いの対比、木々の個性や大きさの比較、背景とのバランスなどを考慮して撮影位置を選択しフレーミングを選んでいくことが大切。  
 ■カメラ：キヤノンEOS-1 レンズ：EF300mm F2.8L シャッタースピード：1/50秒 AE  
 フィルム：RVP PLフィルター・三脚使用  
 撮影地：北海道士幌町

日本人は元来そういう美意識、そういう血というものを持っているのでしょうか。それが脈々と受け継がれ、我々の心の中では、やはり秋の風景などを見た時に「雅」という感性が広がってゆくように思っています。だから皆さんも風景写真を撮ることで、この地に生きてきた先人達に思いをはせ、日本人の美意識や感性への理解を深めていただきたいですね。

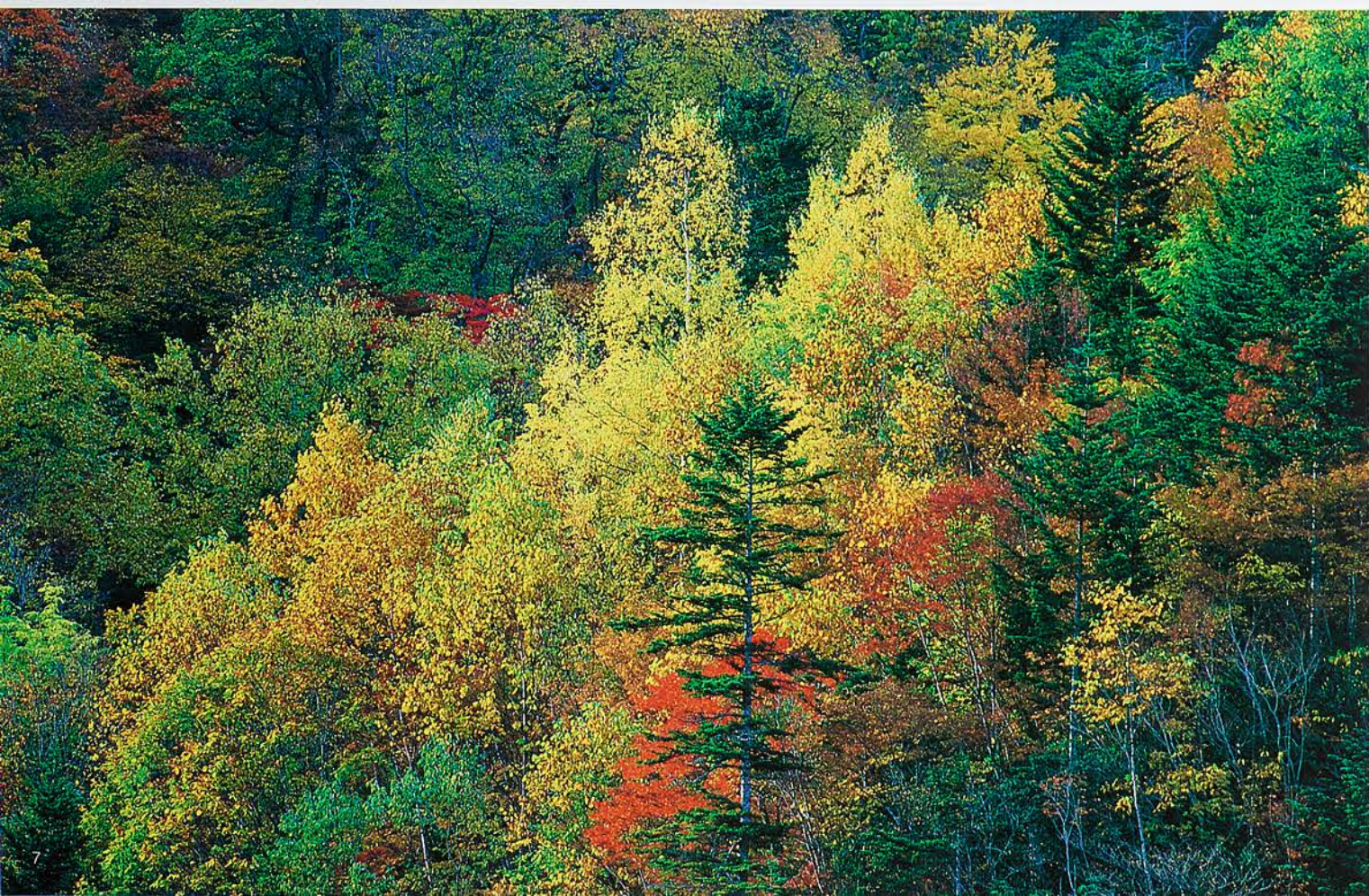
大切なのは、「雅」の心情で被写体を見つめること。

「雅」の美意識は、日本の伝統音楽とか、和歌や俳句とか、日本画などにも多く表現されていますが、それらの手法というのは、ある対象物が持っている「雅」を、自分の心情にいったん移して、それを表現に切り変えてゆく作業だと思えます。その点写真というのは、直接的にカメラで被写体をとらえることもできます。しかしそこでシャッターを押す前に、一度自分の気持ちでその撮影対象に思いを託



秋は太陽が南に傾き、一日が短くなる。従って日の出が遅く、日の入りが早く、常に低いライティングを選ぶ。また、空気が澄んで空の描写がしやすくなる。  
 ■カメラ：キヤノンT-90 レンズ：FD300mm F4L シャッタースピード：1/125秒 AE +1EV補正  
 フィルム：PKR 三脚使用 撮影地：北海道弟子屈町

して見つめてやると、同じ風景でも見え方、とらえ方が違ってくるんです。このように日本人が長い間に培ってきた「雅」の心情にもういっぺん立ち返って、それからカメラを通して被写体を見つめてみる、といったことを、皆さんにもぜひ心がけていただきたいと思えます。そうすることによって初めて、日本人が風景に託した心情というものが写真で表現できるんです。



キタムラがお薦めする「紅葉の雅」撮影ポイント

※ここにご紹介した場所で撮影をする場合は、常識的なエチケット・マナーを守るようにしましょう。特に撮影地の所有者及び近隣に迷惑をかけるよう、また自然環境への配慮などを忘れないよう、ご注意ください。

**9** ①鈴木直史氏 ②京都市東山区東福寺 ③JR奈良線東福寺駅→本町通り東南方向へ徒歩約5分 ④11月下旬 午後4時頃




**8** ①竹内和雄氏 ②福井県吉田郡志比村藤巻 興行寺 ③京福電鉄勝山線越前竹原駅→徒歩7~8分 ④10月下旬 午後3時頃




**7** ①小松啓二氏 ②安倍峠林道 静岡市梅ヶ島温泉と身延大城中間 ③JR東海道本線静岡駅→静鉄バス安倍線梅ヶ島温泉行き終点→徒歩約2時間 ④11月上旬 午前6時30分頃 (日の出の斜光が良い)




**12** ①徳永宗平氏 ②岡山県高梁川の支流 小坂部川大佐ダム上流 赤松溪谷 阿曾滝橋上 ③JR伯備線刑部(おさかべ)駅→車で約30分(途中も撮影ポイント多し) ④10月中旬~下旬 午後1時頃 無風 好天が良い




**11** ①矢作哲朗氏 ②奈良 二月堂の北 仏餉屋横 ③近鉄奈良線奈良駅→バス大仏前下車→二月堂に向かって徒歩10分 ④11月下旬 午後5時頃






**10** ①杉山典之氏 ②京都市仁和寺観音堂前 ③京福電鉄北野線御室駅 ④11月中旬 午後2~3時頃




**16** ①松村晴男氏 ②山口県美弥郡秋吉台展望台から大正洞線の長者ヶ森へ行く途中 ③JR美弥線美弥駅→バス秋吉洞行き秋吉台展望所下車→バス東秋行き秋吉台下車→長者ヶ森方面へ徒歩約20分 ④11月下旬 朝夕が良い(草紅葉のため雨後に太陽がでた直後が理想)




**15** ①寺本俊行氏 ②島根県八束郡玉湯町 千本ダム周辺 ③JR山陰本線松江駅→バス大東行き千本ダム下車 徒歩約20分 ④11月上旬 正午から3時頃

**14** ①胡摩田貞雄氏 ②鳥取県倉吉市桜 大日寺の大イチョウ 倉吉市街より約10km西の山間 ③JR山陰本線倉吉駅からバス ④12月上旬




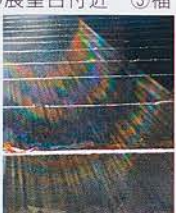

**13** ①竹下寛人氏 ②広島県佐伯郡宮島町 千畳閣 ③JR山陽本線宮島口駅→宮島口棧橋→船で宮島→徒歩約15分 ④11月上旬~中旬




**20** ①溝尻和幸氏 ②佐賀県佐賀郡東与賀町 干拓いこいの広場周辺の有明海干潟 ③JR長崎本線佐賀駅→佐賀バス大野行き住吉下車→徒歩約4km ④11月中旬 午後4時頃 (朝夕の斜光、干潮時が良い)




**19** ①百崎礼治氏 ②福岡市中央区西公園の展望台付近 ③福岡市営地下鉄大濠公園駅→参道を徒歩約15分 ④11月上旬 午後4~5時

**18** ①森達敏氏 ②愛媛県周桑郡丹原町 西山興隆寺 三重の塔 ③JR予讃線壬生川(にゅうかわ)駅→バス関屋経由湯谷口行き西山入口下車→徒歩約20分(途中撮影ポイント多し) ④11月下旬 午後2~3時




**17** ①杉本正利氏 ②徳島県美馬郡剣山 ③JR徳島本線貞光駅→バス剣山リフト見の越駅(約1時間)→リフト西島駅→南東へ岩山が見える位置まで徒歩 ④10月上旬 午前9時頃 (晴れより曇天、雨天が撮影向き)




**3** ①西島達也氏 ②岩手県岩手郡松尾村 松川溪谷 森の大橋 ③JR東北本線盛岡駅→バス森の大橋下車(約1時間40分) ④10月中旬 午前10時頃




**2** ①秦野英年氏 ②青森県三戸郡 弥勒ノ滝付近 ③JR東北本線三戸駅→南部鉄道バス田子経由夏坂行き終点→徒歩約7km ④10月中旬 午前10時頃




**1** ①宮崎幸雄氏 ②北海道上川郡 東山町 旭岳ロープウェイ姿見駅下車 50km下の地点 ③JR函館本線旭川駅→旭川電気軌道バス旭岳ロープウェイ行き終点→ロープウェイ姿見駅下車 ④9月下旬 午前が良い




**6** ①佐々木修氏 ②北アルプス 瀧沢ヒュッテ裏より瀧沢岳を望む ③JR中央本線松本駅→松本電鉄新島々駅下車→バス上高地下車→梓川沿い徒歩約6時間 ④10月上旬 午前7時頃




**5** ①北村秀夫氏 ②埼玉県入間市春日町 蓮華院 ③西武池袋線入間市駅→徒歩北へ 国道16号を越え霞川を渡ってすぐ約10分 ④11月下旬 撮影は午後3時頃




**4** ①伊東周平氏 ②鳥海山山麓 竜ヶ原湿原 駐車場わき ③JR羽越本線酒田駅→バス終点鳥海山荘(車移動が便利) ④10月上旬 朝日が見る直前直後





●印はカメラのキタムラがある地域。

ここに紹介する撮影ポイントおよび写真は第4回全国紅葉前線フォトコンテストに入賞された方にご協力いただいたものです。説明の番号は①撮影者 ②撮影場所 ③交通手段 ④撮影チャンス時期と時間

※ここに掲載した撮影ポイントは、ほんの一例です。なお、掲載写真は昨年以前に撮影されたものであるため、現在は景観が変わっている場合もありますのでご了承ください。

# 失われた写真染色の世界

写真・資料提供  
古写真蒐集家 土井宏純氏



誰もが手軽にカメラを持ち歩き、カラー写真が撮れるようになった現在、白黒写真すらすら目にすることが珍しかった時代を想像するのは難しいことかもしれません。ここに掲載した写真は、その写真が希少であった百年ほど

前に作られた、白黒写真に着色したものです。現在の写真現像は機械が行うことが多くなくなりましたが、これらの写真は一枚ずつ手焼き、手現像され、変色しないように薬品でセピアに調色されたうえで、水性染料と筆で丁寧に人工着色されています。

1900年前後のヨーロッパでは、このようなポストカードはカルテ・ド・ポスターレと呼ばれ、大流行しました。掲載した写真はいずれも1870〜1910年頃に撮影され、着色されたもので、印刷ではわかりづらいかも知れませんが、今もって色鮮やかに残されています。中にはドレスに胡粉が使用されていて、指で触れると盛り上がりわかる手の込んだ細工が施されているものもあります。また、着色したドレスの上に銀ラメを、帽子には色とりどりの鳥の羽を貼るといった凝ったものもありました。このカルテ・ド・ポスターレはフランスを中心にイギリス、ドイツなどヨーロッパ各国で盛んに作られていたようです。当時発行されていた活版印刷のファッション新聞には、衣装の写真の一枚一枚に着色したのもありました。しかし第一次世界大戦の勃発とともに下火となり、その後の印刷技

術の急速な発達で、こうしたポストカードは影を潜めてしまいました。日本には幕末の頃に写真が伝わり、ほどなく着色写真も登場しています。左の写真は色がだいぶ褪せてしまったため、わかりづらいとは思いますが、頭巾に紫が、左の植木には緑が着色されています。明治に入ると専門の写真師が登場し、「横浜写真」と呼ばれる、来日した外国人旅行者向けの土産品として日本の名勝風景、社寺、風俗、人物などの写真を貼り付け、絵具で着色されたアルバムが盛んに作られました。この写真を着色していた職人の中には、明治に入ってすたれてしまったために、職を失った江戸の浮世絵師たちも多く含まれていたといわれています。現在の着色の技術は写真館などのポートレート修正にわずかに活かされています。



# Nikon

超かんたん・新システム対応コンパクトカメラ

## ニュービス Nuvis

新発売



Nuvis 125i

コンパクトなボディに30mm〜100mm迫力の3.3倍ズーム(リモン・ケース・ストラップ付)  
希望小売価格(税別)..... ¥50,000



ニヤンとも、かんたん。

■カタログをご用意しています。機種名を明記の上、100-91 東京中央郵便局私書箱1269号 株式会社ニコン お客様相談室宛ご請求ください。

株式会社 ニコン 本社 100 東京都千代田区丸の内3-2-3 (富士ビル) 製品に関するお問い合わせは「お客様相談室」まで。電話 (03) 3216-1010

京セラ株式会社



# CONTAX AX

Automatic Back Focusing System

- 永年愛用のカール・ツァイス T\* レンズがそのまま使える画期的な AF システム
- 新開発オートマチック・バックフォーカシング方式
- 作画重視の測光方式、中央重点平均測光/スポット測光
- 高精度、最高速 1/6000 秒縦走行フォーカルプレジシャッター
- チタンカバー採用の強靱なアルミダイキャストボディ
- 絞り値、シャッター速度、露出モード、露出補正値の撮影データ等を記録できる専用データバック D-8
- メーカー希望小売価格: 本体 250,000 円 データバック D-8 68,000 円 (消費税抜き価格)
- お問い合わせは: 京セラ (株) 光学機器事業本部 〒150 東京都渋谷区神宮前 6-27-8 TEL.03-3797-4611 (代)

# 「雲」を撮る

科学の目と、日本人の心で空の移ろいをキャッチする。  
高橋健司氏（写真家）

普段我々は、「雲」というものを風景の一部として写真に撮り込むことはあっても、それ自体を主題としてカメラを向けることはあまりないように思われる。ところが今回お話を伺った高橋健司氏は、そんな「雲」を20年も撮り続けているカメラマンだ。というのも、彼はつい最近まで（財）日本気象協会に勤めておられ、仕事の一部として雲を撮影し始めたのが、そもそものきっかけであった。

「テレビの天気予報を担当していました、雲の出方などを解説する時、やはり実物の写真がなくて話しくいんです。そこで私がその日の雲を撮って、『今日はこんなイワシ雲が出てました、皆さん、ご覧になりましたか？』というように紹介していたのが高じて今に至っています」と語る高橋氏。こうした関係で雲のほかにも朝露や霜など、様々な自然現象を写真で記録しているという、ユニークな経歴と科学的な視点を持った写真家である。

「意外なことに、20代の女性に人気があるんですよ」と彼が教えてくれた写真集『空の名前』を拝見すると、ぽかんと浮かんだ綿雲のようなものから、巨大な入道雲、また細長い筋雲のようなものまで、雲にはこれほどまでに様々な形や表情があったのかと、あらためて感心させられる。さらにそれぞれ気象学的な解説や、和歌・俳句などに登場する文学的な呼び名まで書き添えられており、読者は雲に関するちよつとした知識まで得ることができ、高橋氏ならではの興味深い内容である。

「雲の魅力は、同じものがふたつとないこと。また、わざわざロケに出かけなくとも、空が見える所ならどこからでも撮れるのがいいですね」と高橋氏は言う。雲はアマチュアカメラマンにもぴったりのモチーフといえそうだが、撮影位置の選び方によってはそれなりにポイントがあるようだ。「天気というのは西の方か



「彩雲」 水の粒でできている雲が、太陽の下、あるいは近くを通ると雲が美しく彩られることがある。水の粒がプリズムの役目を果たして光が分光されるのである。

■カメラ：ニコンFE2 レンズ：35mm～105mmズームF3.5～4.5S  
絞り：f5.6 シャッタースピード：オート（-1.5EV補正） フィルム：RDP11 撮影地：新宿副都心



「かなとこ雲」 「かなとこ」は鉄床とも呼ばれる、鍛冶場で鉄を鍛える台のこと。それを横から見た形に似ている、というのである。夏を代表する雲で、夕立を降らせる。

■カメラ：ニコンFE2 レンズ：80mm～200mmズームF4S 絞り：f8  
シャッタースピード：オート フィルム：KR 三脚使用 撮影地：逗子市

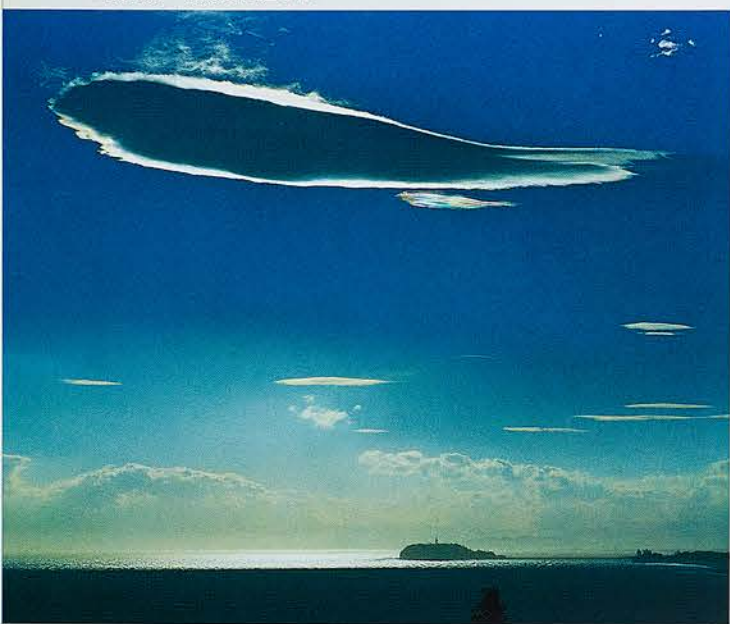
「サバ雲」 魚のサバの背中を連想させる雲で、筋雲に続いて現れる。学名は高積雲で、この雲が広がっていると、美しい夕焼け（朝焼け）空が期待できる。

■カメラ：ニコンFE2 レンズ：35mm～105mm  
ズームF3.5～4.5S 絞り：f5.6 シャッタースピード：オート フィルム：RVP 撮影地：鎌倉市



「レンズ雲」 凸レンズを横から見た形の雲で、「さや雲」とも言う。南風の強い日に山脈の風下に現れやすく、風が収まるまで同じ場所に浮かんでいる。写真の雲の一部は彩雲になっている。

■カメラ：ペンタックス6×7  
レンズ：105mmF2.4 絞り：f16  
シャッタースピード：1/250  
（-2EV補正） フィルム：RFP  
三脚使用 撮影地：逗子市



ら変わるので、雲を撮るなら西の空が見渡せる所がベストです」と高橋氏。通常の風景写真というのは、天気の良い日や風の強い日は撮影に向かないというのが常識だが、こと雲に関しては、これがあてはまらないという。

「低気圧がやってきて天気がくずれする前後などに、雲は出やすいんです。特に風が強ければ、雲が流されて、どんどん形が変わってゆくんです。だから一瞬、動物や鳥の形に見えるものなど、モチーフとして面白い雲が見られますよ。青い空に雲が浮かんでいるだけだと、気持ちのよい写真は撮れても、ウェットな日本人の感性に訴える、ドラマチックな写真にはならないんです」。

「気象学に裏打ちされ、日本人の感性にも言及した彼の説明は、なるほど説得力がある。

「『風景』とか『光景』って言いますが、風や光で景色が変わってゆくけれど、こういう言葉があるんだと、私は思うんです」と高橋氏が語るように、雲も気象条件によつて千変万化するが、彼が最も美しいと感じるのは、やはり光と調和した時だということ。その代表的なものが、雲に太陽が隠れた時、雲の粒がプリズムの役目をし、虹のように鮮やかな色を発する「彩雲」という現象だ。また、強い風によつて左右に広がった「レンズ雲」や、湿った空気が流されて山沿いに上昇して雲となり、笠のように被さった「笠雲」など、彼が我々に教えてくれる珍しい雲の写真を見てみると、ぜひ一度実物を見てみたい気がする。

「雲を撮る上での心構えとしては、まず『フィルムを多めに用意すること』が大切だと、高橋氏は言う。雲は次の瞬間にどんな変化を見せるのか予測ができないため、『フィルムを全部撮り切った後で、いい形の雲が出てきた』という悔しい思いを何度も経験していると、高橋氏ならではの教訓といえよう。

さらに35mmと105mmのズームレンズも彼の必需品だ。というのも、空の雲に自分から近づくことはできないが、ズームなら自由自在に撮影距離を変えていけるため、構図を決めやすいからである。また、例えば先にロングで引いて雲全体を撮っておいて、あとは寄りで部分部分の面白そうところを切り取ってゆくと、といった撮影方法も、ズームの使い方としては有効だ。

このように雲の撮影におけるコツや心構えはいくつかあるが、「とにかく一番大切なのは待つこと。雲はなかなかこちらの思い通りにはなりませんから、常に変化を待てる観察しながら、自分が撮りたい形になる瞬間を待つしかないんです」と高橋氏。文字通り「雲をつかむような話」だが、「雲を待つ間は、足下や周辺にある、他のものにもカメラを向けてみることをおすすめします。今まで気づかなかつた、面白いモチーフを発見できるものですよ」と、すべての自然現象を被写体として見つめ

「笠雲」 山を人の頭に、雲を笠に見立てたもの。笠の形は絶えず変わるので、焦らず、じっくりと撮りたい。この雲が現れると70～80%の高率で雨になる。

■カメラ：ニコンFE2 レンズ：35mm～105mmズームF3.5～4.5S 絞り：f8 シャッタースピード：オート フィルム：KR 撮影地：富士・朝霧高原



「雲間の後光」 雲の隙間から、太陽光が差し込んでいる。この光を私の体から放射されるという光輝に例えたものだ。露出は輝く海面に合わせた。

■カメラ：ニコンFE2 レンズ：80mm～200mmズームF4S  
絞り：f8 シャッタースピード：オート（-2EV補正）  
フィルム：KR 三脚使用 撮影地：逗子市

続ける高橋氏は、アドバイスを。我々も、たまには自分だけの「展覧会」をどこかに見つけて、様々な自然に目を向けながら、日がな一日のんびりと雲をカメラで追い、心豊かな休日を通してみたいものだ。



たかはし けんじ 1946年京都府生まれ。65年より（財）日本気象協会に勤務しながら自然現象をモチーフとした写真を撮り続け、96年にフリーの写真家として独立。日本写真家協会会員、自然科学写真協会会員。著書：『空の名前』『CLOUDLAND』『ポストカードブック四季だより』『空色通信』（以上光琳社出版）、『風と光と雲の言葉』（講談社）、CD-ROM『どこまでも高く』（シンフォレスト）ほか。





ミノルタα7000 (1985年)  
AFを採用した世界最初のボディ集中制御方式の35ミリ一眼レフカメラ。AFにはTTLの位相差検出方式を採用、ボディにはAF駆動モーター、レンズにはROM-ICを内蔵し、完成度の高いAFシステムを実現。

## システムの将来性を見る目が生んだα7000の大ヒット。

日本初の本格的AF一眼レフカメラとしてα7000が発売されたのが1985年。当時のカメラ市場は、全般にコンパクトカメラの台数が急上昇しているのに対し、一眼レフの方は一部の写真愛好家に向けたアイテムとして下降線をたどっているような状況だった。こうした中で、より美しい写真が得られる一眼レフを、より多くの人に使ってもらいたいという思想のもと、システム全体として完成度の高いオート化が必要と考え、その手段



MINOLTA

## メーカー歴史探訪⑤

## ミノルタ編

# 確かな技術力と市場ニーズに裏付けられた斬新な製品作り。

ミノルタというメーカーから、誰もがすぐに思い浮かぶのは、現在は主流となっているAF一眼レフカメラのパイオニアとして、1985年にα7000を発売したことでしょう。その後もαシリーズを中心に、ユニークな製品を作り続けているミノルタを訪ね、αシリーズの開発担当者にお話を伺いました。

のひとつがAF化だったという。もともとαシリーズ以前から、ミノルタは「多機能にしてシンプルな操作性」を製品作りのスローガンとしてきたが、コンパクトと一眼、両者の利点を活かし、それを最も鮮明な形で具現化したものがα7000であったと語るのは、ミノルタ(株)カメラ第一開発部の泉達郎氏。「その実現のために大きな役割を果たしたのは、マイコンを含むエレクトロニクス技術の進化だと思えます。それまでは人間の頭や手によって行なわれていたものをカメラが肩代わりし、しかもその中で「多機能」と「シンプル」という相反する二つの要素を両立させ



ミノルタ(株)カメラ第一開発部 泉達郎課長

るには、高度なエレクトロニクス技術が欠かせないものなんです。α7000が完成した時は、ついにその解答を得た、という感じがしました」。

完成度の高いAFシステムを達成する発想



ミノルタ(株)カメラCE室 米多比常世室長

## 多機能とシンプルさを追求し、再び大きなムーブメントを。

の決断に踏み切れたんだと思います」と、ミノルタ(株)カメラ第二開発部の山野泰照氏はそのことについて語る。結果としてα7000は多くのユーザーに受け入れられ、皆さんご存知のように爆発的な大ヒット商品となったのである。

に加え、優れたマイコンやデジタル技術、そしてこれらをユーザーニーズに応えた形で製品化しようとするミノルタの努力がなければ、この時代にはまだAF機は誕生していなかったに違いない。

ところで、一眼レフにおけるAF化という意味では、実はミノルタが初めてではない。正確にいうと、レンズ側にAF機構が付いていたものなどが、当時すでに存在していた。ただしこれらはユーザーニーズに合う製品としては、まだ構造的・機能的に不完全であったため、大きな市場を形成するには至らなかったのである。

「我々としては、AFに関してはむしろ後発だったんですが、これを将来性のあるシステムとして発展させるために、AFに対してじっくりと二から取り組まねばと考えたんです」と語るのは、ミノルタ(株)カメラCE室長の米多比常世氏。ただそのためには結果的に、マウント変更という苦しい決断を下さなければならなかった。つまり今までのミノルタ製品の愛用者にとっては、手持ちの交換レンズが使えなくなるというデメリットを乗り越える必要があったのだ。「やはりα7000の持つ製品としての価値が、デメリットよりも上回ることを我々が十分に確信できたから、そ



ミノルタベクティスS1 (1996年)  
従来のカメラにはない機能の広がりを持った、新システムAPS対応の一眼レフカメラ。システムとしてラインアップしたレンズやフラッシュも含め、超小型軽量が防滴設計を施した。



ミノルタ(株)カメラ第二開発部 山野泰照課長

のほかに、撮影者の「個性化」に対応した多様なタイプのカードを取り入れたが、これらは現在の機種にも受け継がれている。

1990年代に入ると他社製品も含めてAF機能がより洗練されてきており、その中でさらに高い機能をユーザーに提供しようというところで、α7xiに始まる第三世代では、パワーズームを導入し、ズームリングのオート化を図った。また、コンパクトカメラのユーザーも一眼レフにステップアップしやすいように、初心者でも扱える普及機にも力をいれ、新しいユーザーの開拓・育成を図ったのである。第四世代では操作性に対する多様なユーザーのニーズに応えるために、高い機能と性能をベースとした操作系の性格の異なる製品が目を見く。「おまかせタイプ」ながら撮影意図に素早く対応できる高性能一眼レフカメラのα707siと、マニュアル操作感をベースに、使用頻度の高い操作部にダイヤル、レバーを用い、使いやすさだけでなく、直感的なわかりやすさにも配慮した「操作感覚重視」のα507siが、その代表的な製品である。

そして今年、ミノルタはαシリーズとは別の、新しい一眼レフカメラを発表した。新システムAPSに対応したベクティスS1だ。今までにない多様な機能を備えたAPSにおいて、レンズも含めた二眼レフのシステムを業界でもいち早く構築したベクティスS1は、さら

なるカメラユーザーの底辺拡大の鍵を握るアイテムと言えるだろう。「従来の市場にない革新的なシステムという点では、かつてαを開発したミノルタらしい製品です」というこちらの問いかけに対し、「ただ独自性を求めているだけでなく、まずニーズがあり、それを支える技術がしっかりと存在しているんです」と、米多比氏は強調する。



ミノルタα507si (1995年)  
ダイヤル及びレバーによる操作を積極的に採用。一目見てカメラがどんな設定にあるのかを把握でき、撮影意図をダイレクトにカメラに反映できるようにした操作感覚重視のカメラ。



ミノルタα707si (1993年)  
世界トップレベルにある高精度ハイスピードAF。複雑な光線状況にも強い測光能力。撮影者の意図が素早く確実に伝えられるように、原則として1ボタンに1機能だけを配置した。

これを「多機能にしてシンプルな操作性」という理念から行き着いたもうひとつの形として、ミノルタがカメラ市場に再び大きなムーブメントを起こしそうな予感が感じられる。



ミノルタα9xi (1992年)  
4.5コマ/秒という高速連写に対応するAF、1/12000秒の超高速シャッターを実現。測光インジケータなどにより、撮影者がカメラの作動状況を把握した上で操作できるようにした。



ミノルタα7xi (1991年)  
カメラを構えただけで撮影準備が完了する、ゼロタイムオートを搭載。また、カメラと対話できるように操作できるコミュニケーションファインダーにより、優れた操作性を実現。



ミノルタα7700i (1988年)  
ワイドフォーカスエリアや動物予測フォーカス制御などを新たに採用。また、インテリジェントカードシステムにより、種々の機能を選択して付け加えることで、あらゆる撮影に対応。

# レンズは撮影目的をしつかり持って選ぶ

一眼レフカメラの醍醐味はレンズ交換にあります。撮影状況に合わせて、一台のカメラで次々とレンズを交換し、イメージ通りの写真を撮る。これは各々のレンズの特性を熟知しているからこそ、できることなのです。

## 広角レンズと望遠レンズ

な場合にどのようなレンズが適しているのでしょうか。

「広角」あるいは「標準」「望遠」といった言葉は、レンズの話には一般的によく用いられていますので、どなたも一度は耳にされたことがあることと思います。広角レンズは広いところを、望遠レンズは遠いところを撮るレンズだと、覚えている方もいるのではないのでしょうか。これは焦点距離といって、フィルムに写る範囲を表したものです。この焦点距離を具体的に数値化したものが、35ミリレンズ、50ミリレンズ、70ミリレンズといったレンズのミリ数です。この数値はカメラに装填した時のフィルム面からレンズ面までの距離を表したもので、標準レンズは50ミリで人間

の目に最も近いレンズと言われています。これより数値が小さい(短い)レンズを「広角」、大きい(長い)レンズを「望遠」と言います。この数値が小さくなるほど広い範囲を写すことができますが、相対的に写真に写る被写体は小さくなります。この数値が大きくなるほど範囲は狭くなり、写真に写る被写体は逆に大きくなってゆくのです。写真①②で、焦点距離と被写体の写り方の違いを確かめてください。被写体に対し、どれだけ背景を写し込むかによって、レンズの焦点距離を選択します。

レンズ一本の値段は、安いものでも数万、高いものになると数十万、超望遠レンズともなれば百万を超える高価なものもあり、とても個人で全種類のレンズを集めることなどできません。では、何を目安にレンズを選び、購入するかというと、これはやはり撮影目的に合わせるのが第一です。では、どのような

写真①のフィッシュアイレンズは魚眼レンズとも言い、写真に写る範囲を極端に広げた特殊なもので、画像はレンズの湾曲に合わせてゆがんで写ります。一般に、レンズは焦点距離が短いものほど湾曲が大きくなってきま

すので、近接した撮影で、たとえば背の高い建築物の直線をきれいにしたい撮影などには、焦点距離の極端に短いレンズはお勧めできません。逆に写真にダイナミックでワイドな広がりが必要な場合は、広角レンズの得意とするところなのです。

作例の写真を順に見てゆくと、焦点距離が長くなればなるほど、遠くのものが大きく写ってくるのがわかると思います。これはレンズが切り取る範囲が狭くなってゆぐために、相対的にフィルムに写る画像は大きく見えてくるためなのです。スポーツ写真などでは、ブレている選手を間近で撮影することができません。それでも狙った選手の細かな表情まで写し取りたいものですね。そのような状況は焦点距離の長い望遠レンズの独壇場です。焦点距離の長い望遠レンズは、レンズ自体



① フィッシュアイ 8mm



② 超広角 15mm



③ 超広角 18mm



④ 広角 24mm



⑤ 広角 35mm



⑥ 標準 50mm



⑦ 中望遠 85mm



⑧ 望遠 135mm



⑨ 望遠 200mm



⑩ 超望遠 400mm



⑪ 超望遠 600mm



⑫ 超望遠 1000mm

※写真はすべてニッコールレンズ。

の長さも長く、重たいレンズです。三脚は必需品となります。また、レンズが揺らえることのできる範囲も狭まるため、動きの激しい被写体などでは、狙っている間に相手がファインダーから外れたりすることも多くなりやすいため、前もって十分な準備と被写体の動きに対する確かな予測が要求されます。また、それだけにイメージ通りの写真を撮ることができた時の喜びもひとしおのものがあります。

## ズームレンズと固定焦点レンズ

ズームはまた、大別するとズームレンズと固定焦点(単焦点)レンズに分けることもできます。ズームレンズは24〜80ミリ、あるいは80〜200ミリといった、ある程度の範囲の焦点距離を自由に調整できるようにしたレンズで、被写体や撮影状況に合わせていちいちレンズを換えるといったわずらわしさを、ある程度解消してくれます。旅行などに行くときには持っていくレンズに迷ったりすることがあります。欲張ってレンズをたくさん持ったのではそれだけで大荷物になりかねません。

このf値というのはレンズの絞りを開放(最大にした場合)の、そのレンズが取り込める光の量を表したもので、f値が小さいレンズほど画像が明るいのです。一般に、同じ焦点距離のレンズであるならば、口径の大きなレンズほど光を取り入れる量は多くなり、f値は小さくなるのですが、ズームレンズの口径は固定焦点レンズに比べると小さくなっています。このため口径の大きい固定焦点レンズほどの明るさはありません。

また、固定焦点レンズはズームレンズと比べると最短撮影距離も短いので、被写体に思い切って近寄り、迫力のある写真を撮影することもできます。

この長所短所を考慮したうえで、自分の撮りたいイメージと照らし合わせ、レンズを選ぶようにしましょう。明るい外での風景写真を撮るのならば、ズームレンズでも十分です。室内や夜など悪条件での撮影を望むの

ならば、固定焦点レンズの方が有利です。いずれにせよ、まず何を撮りたいのか、どのような写真を撮りたいのか、それを明確にさせることが、間違いないレンズ選びのポイントです。

**RICOH**  
コンパクトの価値を進化させて、  
**R1s**デビュー。

驚きの薄さ  
25mm  
(グリップ部を除く)

カラー/プラチナムシルバー、グレイッシュグリーン、チタニウムブラウン メーカー希望小売価格 41,000円(税別、送料込)

「コンパクトカメラ オブ ザ イヤー」アマチュアフォトグラファー誌(イギリス)  
「カメラクラブ」35・カメラ記者クラブ特別賞、カメラ記者クラブ(日本)  
「ベスト フィックスド レンズコンパクト1995」イニングカメラ誌(イギリス)  
「オーストラリアン コンパクトカメラ オブ ザ イヤー」  
オーストラリアンカメラ誌(オーストラリア)  
「ベスト ホワッツ ニュー」ポピュラーサイエンス誌(アメリカ)

5★  
リコーR1は、国内外で、5つの賞を獲得

株式会社リコー 光学事業部 〒140 東京都品川区東品川3-32-3 TEL.03(5479)2901

**PENTAX**



TIPA "サブベスト・コンパクトカメラ"  
オブ・ザ・イヤー'96-'97 受賞



世界最小最軽量 3倍ズーム  
**ESPIO115M**

希望小売価格(税別) 52,000円  
\*全ての3倍ズームカメラの中で世界最小最軽量。9月1日現在。



EISA "ヨーロッパカメラ"  
オブ・ザ・イヤー'96-'97 受賞



TIPA "サブベスト・一眼レフカメラ"  
オブ・ザ・イヤー'96-'97 受賞



ダイヤル式世界最小 超軽量AF一眼  
**MZ-5**

ボディ(ブラック/シルバー).....希望小売価格(税別) 73,000円  
FAズーム28~70/4AL付.....希望小売価格(税別) 103,000円  
\*レンズ交換式35mmAF一眼レフカメラの中で世界最小。9月1日現在。

**ヨーロッパ2大カメラ賞受賞**

●カタログのご請求は、〒100 東京都千代田区永田町1-11-1 ペンタックス販売株式会社宣伝部まで機種を明記の上ハガキでお申し込みください。  
旭光学工業株式会社・ペンタックス販売株式会社

**OLYMPUS**

(人から発想します。オリンパス)



シャンパンゴールドとブラックの、  
オリンパス ミュージックズーム 105



105mmズームなのに、こんなに小さく美しい。

- 小型軽量38→105mmの3倍クラスズーム ●生活防水
- 多彩なフラッシュ機能 ●パノラマ途中切り替え
- 高品位ハイブリッド非球面レンズ ●視度調節機能
- 電池寿命を20%改善 "ダブルステップ・アップコンバータ方式" 採用

**μ[mju:] ZOOM 105**

希望小売価格(税別) シャンパンゴールド/ブラック ¥52,000 (リモコン/フォーカス・ストラップ付)

エレガントな、スモール・ビューティ。  
誕生。

**SIGMA**

この風景、この1本。



APO ZOOM MACRO 70-300mm F4-5.6

**APO Zoom Macro Lenses**

ロングで撮るか、接写で狙うか。マクロ機能搭載の望遠ズーム。

**APO ZOOM MACRO 70-300mm F4-5.6**

中望遠から超望遠までカバーする高倍率望遠ズーム。300mm時には1:2の本格的マクロ撮影が可能です。SLD(特殊低分散)ガラスの採用により、色収差を徹底的に除去しました。

●AF・MF希望小売価格(税別): 55,000円  
<シグマSA用、キャノンAF用は60,000円>、ケース・フード付

**APO ZOOM MACRO 70-210mm F3.5-4.5**

ピント合わせも楽なF3.5の明るさで、しかも倍率1:2のマクロ撮影を可能にした望遠ズーム。優れた操作性、色収差を抑えた鮮明な画像。フィールド撮影や旅行などに最適な1本です。

●AF・MF希望小売価格(税別): 55,000円  
<シグマSA用、キャノンAF用は60,000円>ケース・フード付



APO ZOOM MACRO 70-210mm F3.5-4.5

お問い合わせはお気軽に、株式会社シグマ 〒201 東京都柏江市岩戸南2-3-15 tel. 03(3480)1431まで。

準特選 賞金10万円と楯

リバーサルプリント・桜の部 (4名)



「桜さく季」池田 豊 (長野県駒ヶ根市)  
 「春の目」森 政春 (富山県砺波市)  
 「老桜艶やか」(兵庫県高砂市)  
 「霧に咲く」有木雅弘 (奈良県奈良市)

リバーサルプリント・一般の部 (4名)



「杜若の乙女」(京都府宇治市)  
 「長岳寺の春」喜多正和 (奈良県磯城郡)  
 「シャクナゲ咲く深山」(徳島県板野郡)  
 「春流」山口芳明 (長崎県佐世保市)

ネガカラープリント・桜の部 (4名)



「舞い散る桜」堀江一成 (埼玉県大宮市)  
 「花見」加田美登四 (大阪府貝塚市)  
 「桜に浮かぶぼんぼり」(岡山県新見市)  
 「さくら」佐藤 司 (熊本県熊本市)

ネガカラープリント・一般の部 (4名)



「けまん草」平まさる (三重県松阪市)  
 「待ちわびた春」森田清一 (高知県高知市)  
 「藤花咲くかすら橋」松村吉三郎 (愛媛県八幡浜市)  
 「まぢきれなくて」月形政治 (福岡県福岡市)

コニカ賞 賞金1万円と賞状

コニカクローム賞・桜の部(10名)

酒井義仁 (新潟県中頸城郡)「春日」  
 伊藤正一 (長野県松本市)「春風に舞う」  
 川口喜夫 (千葉県匝瑳郡)「桜色の丘」  
 榎本定行 (愛知県知多市)「山に春」  
 杉山省治 (岐阜県岐阜市)「千年大王」  
 吉本典正 (奈良県大和郡)「桜咲く」

コニカクローム賞・一般の部(10名)

宮脇正光 (高知県高知市)「ひょうたん桜」  
 広田和夫 (山口県宇部市)「大岩郷春景」  
 城島英和 (福岡県福岡市)「放熱」  
 永松安幸 (熊本県玉名郡)「休日」  
 伊藤達夫 (千葉県長生郡)「早春の風情」  
 山崎 晃 (大阪府堺市)「水ぬるむ」

インプレス賞・桜の部(6名)

佐々木 秀 (大阪府三島郡)「春の詩」  
 伊野元毅 (奈良県磯城郡)「杜若」  
 田中昭三 (広島県広島市)「リンゴの花の咲く頃」  
 西峰 登 (高知県土佐郡)「雨の原生林」  
 広田和夫 (山口県宇部市)「春が来た!」  
 寺本和雄 (福岡県豊前市)「菜の花で遊ぼう」  
 深江昭三 (福岡県春日市)「春の雪」

インプレス賞・一般の部(6名)

しがの文子 (新潟県上越市)「花吹雪」  
 加藤公雄 (静岡県富士宮市)「春は晴」  
 山本田鶴子 (三重県桑名市)「青春」  
 出口量造 (三重県松阪市)「落花」  
 黒瀬博恭 (熊本県熊本市)「桜の下で」

インプレス賞・一般の部(6名)

山崎勝重 (北海道帯広市)「せりの花」  
 小岩孝司 (北海道函館市)「クマガイソウ」  
 田端友一 (埼玉県上尾市)「街灯花」  
 中村生男 (広島県福山市)「接写」  
 梅原都志光 (愛媛県松山市)「ふれあい」

入選 賞金1万円と楯

リバーサルプリント

岩手県 三田村要悦(盛岡市)「高原に咲く」 群馬県 下山達夫(桐生市)「花に遊ぶ」 埼玉県 梅沢吉利(川越市)「北地の春」 東京都 鈴木一郎(町田市)「富士桜」 奥川真弘(足立区)「さくら色」 吉松秀人(杉並区)「山の高神代桜」	神奈川県 松井浩美(相模原市)「春爛漫」 新潟県 清水定雄(中頸城郡)「春陽に舞う」 角屋健次(南魚沼郡)「早春」 富山県 北野政弘(高岡市)「清純」 静岡県 城内由利子(静岡市)「静かな春」 森上信名(浜北市)「満開の後で」	三重県 小川幹也(桑名市)「花見」 京都府 藤田 博(亀岡市)「舞子桜そして橋」 奈良県 栄久庵浩司(吉野郡)「鮮やか」 松本 健(奈良市)「塔に映える」 岡山県 上杉育人(岡山市)「春の風」	広島県 西元 貴(府中市)「妖しく」 古谷重幸(広島市)「雨後の桜」 中廣英明(広島市)「老桜の幹」 徳島県 森川浩司(阿波郡)「春の乙女」 愛媛県 加藤 進(新居浜市)「春の流れ」 沖野利文(南宇和郡)「老樹」 堀内八祐(松山市)「さくら、さくら」 大野猪春(松山市)「春のメロディー」	高知県 明神良雄(土佐郡)「爛漫」 長崎県 谷口武行(東彼杵郡)「五九六三」 大分県 黒田達雄(大分市)「夕暮の桜並木路」 宮崎県 永野 忠(宮崎市)「春爛漫」 沖縄県 沖崎 繁(中頭郡)「アンバランス」 大野猪春(松山市)「春のメロディー」
---	--	--	--	---

岩手県 吉田金一郎(盛岡市)「ミズバショウ」 長野県 小林俊昭(長野市)「春がいつぱい」 池内正治(松本市)「早春の朝」 埼玉県 田熊英次(上尾市)「若枝」 新潟県 清水定雄(中頸城郡)「春光満つる」 石川県 法利康清(金沢市)「凍つく花」	岐阜県 渡辺 章(吉城郡)「祝い花」 静岡県 安田 勇(静岡市)「静けさつつつ」 京都府 斎藤剛(長岡京市)「夕暮のキリシマツツジと八重ヶ池」 千原正己(福知山市)「薫風」 大阪府 宮崎善義(大阪狭山市)「雨上りのカキツバタ」 北笠義治(堺市)「池畔の藤①」 出野文重(大阪市)「初夏」	原 武一(岸和田市)「タンポポコナ」 兵庫県 原田泰宏(明石市)「春の少年」 奈良県 吉田芳雄(高市郡)「清流に咲く」 鳥取県 安藤文隆(鳥取市)「ばら」 島根県 奥田 誠(松江市)「梅花」 岡山県 大屋雅男(倉敷市)「椿」	横枝宗典(岡山市)「水辺の彩」 中村 博(岡山市)「二連花」 広島県 中廣英明(広島市)「開花前」 山口県 佐伯昭夫(山口市)「浮人」 徳島県 浅野欣也(徳島市)「落花芳潤」 愛媛県 武田 信(新居浜市)「クマガイソウ」 黒川勝彦(西条市)「迎春」	福岡県 池内邦彦(福岡市)「魅惑」 中山善治(飯塚市)「ルンレン」 船越義雄(春日市)「藤の花と地蔵さん」 大分県 井口信夫(大分市)「彩筆」
--	---	--	--	--

ネガカラープリント

北海道 菊池俊一(蘭志郡)「老木の下で」 高橋昭忠(帯広市)「曇化粧の華」 群馬県 加藤 勇(太田市)「春の雨」 埼玉県 阿部 孝(鶴ヶ島市)「巡礼」 東京都 和田伊豆男(品川区)「夢桜」 前園恵子(武蔵野市)「洗礼」	山田直利(世田谷区)「桜一枝」 新潟県 志賀野修市(上越市)「春雪白」 静岡県 宮城島康彦(清水市)「春景」 愛知県 富永友三郎(稲沢市)「季節はずれ」 三重県 伊藤忠弘(鈴鹿市)「名残り雪」	大阪府 樹田茂治(大阪市)「サクラ」 鳥取県 山本正恵(鳥取市)「春日和」 岡山県 森元秀芳(倉敷市)「京桜」 上村和義(倉敷市)「うづきの頃」 柳 洋之(倉敷市)「天上よりの使者」 丹堂信義(岡山市)「桜花爛漫(醍醐桜)」 深井春雄(岡山市)「豪華」	広島県 佐々木盛三(安芸郡)「さくらのお家」 徳島県 井上雅雄(小松島市)「花とメジロ」 板東よしお(板野郡)「ひととき」 渡辺 功(徳島市)「幻桜」 岡田好文(阿波郡)「ふたと桜」 香川県 田岡三豊(高松市)「落花盛ん」 石神秀子(小山市)「八重桜」	愛媛県 松本利男(大洲市)「老木」 岸 悦司(宇摩郡)「石垣と桜」 高知県 中島誠美(高知市)「今日から幼稚園」 田中 稔(幡豆郡)「満開の夜桜」 熊本県 田路俊人(下益城郡)「桜と女」 宮崎県 石神秀子(小山市)「八重桜」
--	--	---	---	---

北海道 中島隆志(上川郡)「高原のミズバショウ」 長野県 石崎昇陽(長野市)「春を待つ福寿草」 森 雄吉(長野市)「福寿草」 埼玉県 多田一雄(浦和市)「アヤメ」 堀江節子(大宮市)「春のおとづれ」 大谷木春男(入間郡)「春一輪」 宮田勇蔵(所沢市)「カキドワシ」	千葉県 伊藤達夫(長生郡)「賞品高く」 神奈川県 田中純子(相模原市)「すいれん」 新潟県 勝尾久伸(西蒲原郡)「ヒメサユリ」 静岡県 梶山義光(浜松市)「スズラン」 原田 勇(清水市)「山里の春」 藤原満寿男(引佐郡)「早春」	京都府 藤本千代栄(相楽郡)「アミガサ、ユリ」 大阪府 西尾弘之(松原市)「紅白」 寺田友三(八尾市)「しゃくなげ満開」 兵庫県 田中純子(高砂市)「オーロラに包まれた野バラの花」 川崎 進(伊丹市)「雪の大阪城梅林」 奈良県 岡本慎二(大和郡)「竹富の春1」	川口正雄(奈良市)「早春」 広島県 沖本カツ子(広島市)「無題」 愛媛県 日野 尚(伊予郡)「ガーベラ」 小泉幸夫(八幡浜市)「雨の中のモクレン」 柏原洋一(松山市)「春霧」 藤原 威(松山市)「希望」 葛原 清(温泉郡)「ターミナル」	高知県 西峰 登(土佐郡)「あけぼの霧情」 福岡県 武内一郎(福岡市)「Fairy(フェアリー)」 安田勇次(太宰府市)「ハナミズキ」 熊本県 西谷貴浩(八代市)「白モクレン」
---	---	---	--	--

カメラのキタムラ 春の花 フォトコンテスト

入賞作品発表!!

主催：カメラのキタムラ 協賛：コニカ株式会社

第4回「全国春の花フォトコンテスト」に、今年もたくさんのご応募ありがとうございました。13,000点を上回る応募総数の中から、見事に入賞された方々の作品を、ここに発表させていただきます。



総評 今年には陽気に恵まれたこともあり、桜が見られる時期も長かったようです。さらに今回からは「春の花」とテーマを広げたことで応募点数も前回に比べて増えた分、レベルの高い作品が豊富に寄せられ、様々なモチーフのバリエーションを楽しめました。審査をしてみて全体にいえることは、特にミズバショウなど野生の花をモチーフにした作品に、良いものが目立ちました。「この花がこんな所に咲いているのか」という意外性が、見る者を引きつける力となっています。また、本来は静物である花というモチーフの中に、動きが表現されているものや、「雪と桜」といった、その地方ならではの風景をとらえたものが、上位に多く入賞しています。



フォトコンテスト審査員 三好 和義氏

1958年徳島生まれ。東海大学文学部卒業。79年APA(日本広告写真家協会)特選。86年木村伊兵衛賞。95年タチ政府特別賞。88年・94年は日本カメラ月例審査員を務める。写真集は「タチ伝説の楽園」「楽園の友だち〜イルカ〜」(以上小学館)、「SAHARA-金の砂 銀の星」(文芸春秋)、「吉水小百合」(世界文化社)など多数。今年、小学館より「屋久島の森」を出版。



「春の散歩道」 和田 浩 (北海道札幌市)

寸評：ワイドレンズを使って、北海道らしい大らかさやのどかな情景をうまく描写しています。青空と桜の対比や、道に樹の影が落ちていたり、速くに人物を配している構図が効果的です。ホカホカと暖かい春の陽と、それを撮る作者の優しいまなざしが感じられます。



わだ ひろし 1960年北海道生まれ。約5年前より、仕事での出張時などを利用して各地の風景写真を撮り続ける。「全国春の花フォトコンテスト」以外に、地元札幌市主催のフォトコンテストでも入選の実績をもつ。



フォトコンテスト審査風景

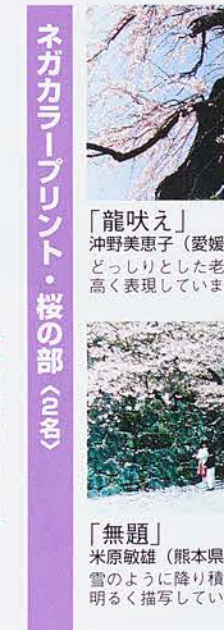
特選 賞金20万円と楯



「春雪-2」 柳谷雅夫(徳島県板野郡) 「しだれ桜と雪」の珍しい光景をとらえています。



「ミズバショウと雪景」 星野 優(岩手県盛岡市) 最適な絞りやシャッタースピードを選んで撮影。



「龍吠え」 沖野美恵子(愛媛県松山市) どっしりとした老木を格調高く表現しています。



「菜の花畑で」 杉山典之(静岡県浜松市) 菜の花にソフトフォーカスがマッチしています。

「鳴子ゆり」 喜多昌弘(徳島県阿南市) 滴が非常にきれいで、水が非常にきれいでいます。

# フィルム特集



眼で見たすべてを、そのまま再現する  
カラーネガフィルム。  
**フジカラー リアラACE 100**

■135サイズ24・36枚撮り

世界最高水準の色再現と、ISO100で最高クラスの粒状性をさらに極め、シャープネス、階調描写など、あらゆる性能をレベルアップした最高級カラーネガフィルム。

## カラーリバーサルフィルム



フジクロームPROVIA400

フジクロームPROVIA100

求められるすべての性能が高次元で調和したリバーサルフィルム。  
**フジクロームPROVIA 100/400/1600**

汎用性の高いスタンダードタイプの100、タフな増感適正を備えた高感度・高画質の400、EI3200まで増感しても確かな描写力を持つ1600をラインアップしています。



フジクロームPROVIA1600

■100は135サイズ24・36枚撮り/120サイズ12枚撮り/220サイズ24枚撮り  
400は135サイズ24・36枚撮り/120サイズ12枚撮り  
1600は135サイズ36枚撮り/120サイズ12枚撮り



■135サイズ24・36枚撮り  
120サイズ12枚撮り  
220サイズ24枚撮り

粒状性・解像力・色再現のすべてに  
卓越した超高画質リバーサルフィルム。  
**フジクローム Velvia**

今までのISO50クラスの水準をはるかに越えた粒状性と鮮鋭度・解像力を持つプロ用フィルム。フジクロームの中で最も高い彩度の色再現性を誇っています。

優れた増感適性とグレイ再現を誇る  
タングステンタイプの高画質フィルム。  
**フジクローム64T**

タングステン電球(3100K)を撮影光源とするときのプロ用フィルム。整った階調、長露光でも極めて写真感度低下の少ない特性を備え、鮮やかな色を再現します。



■135サイズ36枚撮り/120サイズ12枚撮り

**FUJIFILM**  
I&I-Imaging & Information

## カラーネガフィルム



フジカラー スーパー-G ACE400

フジカラー スーパー-G ACE100

フジフィルム独自の写真乳剤技術による超高画質のカラーネガフィルム。  
**フジカラー スーパー-G ACE 100/400/800**

幅広い撮影条件下で高画質が得られる100、極めて自然な肌色再現と保存性に優れている400、高感度データタイプの800がラインアップされています。



フジカラー スーパー-G ACE800

■100は135サイズ12・24・36枚撮り  
400は135サイズ12・24・36枚撮り/120サイズ12枚撮り  
800は135サイズ24・36枚撮り



■135サイズ12・24・36枚撮り

優れたコストパフォーマンスの新しいスタンダードフィルム。  
**フジカラー スーパー-V 100**

高画質と優れたコストパフォーマンス、さらに「スーパー-G ACE400」と同条件のプリンター特性とを合わせ持つ、フジカラーの新しいスタンダードフィルムです。



■135サイズ12・24・36枚撮り

やや光量の少ない場所でのスナップ撮影にも適した高感度フィルム。  
**フジカラー スーパー-G 200**

明るい場所はもちろん、室内・曇り・日陰など、やや光量の少ない場所での撮影にも適した高感度フィルム。優れた粒状性と純度の高い色再現、アンダー側の広いラチチュードが特長。



■135サイズ24・36枚撮り

室内・舞台・夜景などでもストロボをいらずに撮れる超高感度フィルム。  
**フジカラー スーパー-HG 1600**

舞台・夜景などや、室内スポーツ写真など動きの速い被写体の撮影にも最適な超高感度・高画質フィルム。幅広いラチチュードと、ISO1600クラスで最高の粒状性を実現。

# フィルム特集



光によって作られた画像を定着・保存する感光材料は、1839年、フランスのダゲールによって初めて一般に公開されましたが、その後技術の発展とともに銀板、湿板、乾板、ロール状、ネガロールペーパー、ネガロールフィルムへと進展してきました。そして1935年にカラーフィルムが開発され、現在では医療用や工業用を除いた一般用のフィルムだけでも100種類以上になります。この一般用フィルムを細かく分類すると、カラーネガフィルム、カラーリバーサルフィルム(ポジ)、白黒フィルム、その他(インスタント写真用や赤外線フィルムなど)に分けられます。

## ネガとリバーサルの違い

カラーネガフィルムは現像すると、濃淡や色が反転した状態で、実際のトーンや色の判断がつかず、プリントにはじめて像や色が分かるプリント用フィルムです。撮影時に露出が多少不足でも、色再現にはさほど影響を与えませんから、誰でも撮りやすいタイプと言えます。カラーリバーサルフィルムは、現像した状態でも明暗や色を見たままに再現してくれ

## ISO感度の違い

フィルムが光を感じる量を数量的に示したものがISO感度です。明確な基準はありませんが、ISO64以下を低感度、ISO100・200を中感度、ISO400以上を高感度と呼ばれています。感度は大体25/3200の範囲ですが、通常に使われているのは100/400がほとんどです。ISOは数値が大きくなるほど光には敏感に反応しますから、速く動くもの、暗い場所での撮影には高感度フィルムが適しています。

一般的に感度が高くなると、写真の粒子が荒れて色再現も落ちてきます。逆に感度が低くなると、きめ細かな粒子が得られますが、「速いシャッターが切れない」「絞り込めない」など撮影の幅が狭くなります。要条件での撮影には高感度、「きれいな写真」を求めるのなら低感度を用いた方が良いでしょう。また、レンズの解放値が暗いズームレンズには、ISO400程度が適当です。

## フィルムサイズの違い

通常一般的に使用されているのは35ミリ判

## APSフィルム

今春から発売された、新システム対応のAPSフィルムは、35ミリフィルムの約60%の画面サイズで、磁気層を内蔵し、撮影時やプリント時のデータをいれ込むことも可能です。撮影や仕上がりの失敗を、極力防げるシステムになっています。

以上のようなことを参考にしてフィルムの使用に関しては、被写体・天候・撮影場所・使用条件・目的などにより、最も適したものを選ぶことが大切です。

## プロ用と一般用の違い

厳密な基準はありませんが、プロ用は印刷や業務用に使われるために、「色再現性に優れている」「粒子もきめ細かい」「褪せに強い」「シャープに表現できる」といった傾向があります。プロ用フィルムは価格も一般のものに比べて高く設定されています。

サイズの大きいフィルムを使用すると、大伸ばしプリントにした場合に引き伸ばし比率が小さくなるので、それだけ粒子の荒れが抑えられます。

(135サイズ・ライカサイズフィルムです。プロローニー判(120サイズ)は幅が60ミリあり、カメラによって6×6、6×7、6×8、または6×4.5サイズ(セミ判)にもなります。コマージャー写真や写真館でのポートレートに使用されているのが4×5インチフィルム、さらに目的によっては5×7インチや、8×10(エイトバイテン)インチフィルムが使用されます。これらは35ミリのようなロールではなく、シートタイプになります。

# 写真がもっと楽しくなる! フジフィルムの新システム

## 撮影します

### ●新システムカメラ



EPION

フィルム装てん  
失敗なし!

### ●新システムフィルム

FUJICOLOR  
nexia



同時プリントも出来ます

## これがセットで戻ってきます

- プリント
- カートリッジ
- インデックスプリント

このカートリッジは、  
現像済みのネガが入  
っています。

インデックスプリント



焼き増し時に、C・H・Pどの  
タイプにも変更できます。

戻ってきたカートリッジでこんな使い方ができます!

## 撮影後 も便利で楽しい

- テレビで見られる  
Play-it  
フォトプレーヤー  
AP-1
- パソコンで見られる  
Photoscan-it  
フォトスキャナー AS-1
- カンタン整理  
ファイルやアルバムで、整理・保管が簡単!



プリントも出来ます



Print-it  
デジタル/  
ビデオプリンター  
NC-2

## 3つのプリントタイプが選べます。

撮影する時の画面サイズは常に一定ですが、プリントタイプは好みに合わせて3種類から選択できます。撮影時にC・各プリントタイプの縦横比率(概算) H・Pタイプから構図に合わせて設定すれば、カメラがフィルムに記録。プリント時にそれぞれのタイプに自動的にプリントします。また、プリント時のタイプ変更も可能です。

Cタイプ/標準タイプ  
縦横比/2:3

Hタイプ/迫力タイプ  
縦横比/9:16

Pタイプ/パノラマタイプ  
縦横比/1:3

## FUJIFILM I&I-Imaging & Information

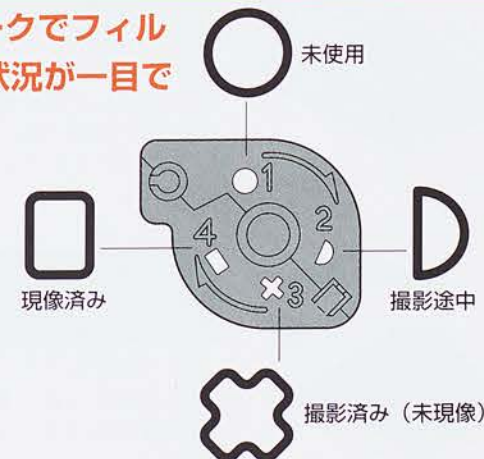
### 写真の持つ可能性を 追求し続ける富士写真フィルム

富士写真フィルム(株)は、1934年に映画用フィルムの国産化を目指して設立されました。翌年には35ミリフィルムの国産化に成功し、その後もパナクロマチックやX線用、カラー用とフィルムの種類を充実させるとともに、感度を高める努力を重ね、数々の優れた製品を生み出しています。

現在は、「映像と情報の文化」の創造をスローガンに、先進のテクノロジーを駆使して様々な分野に進出しています。そして今年、「映像エンターテインメント」の分野において開発された話題の新システム“アドバンスト・フォト・システム”(APS)を発表。フィルムのみならず、カメラからラボ機器・デジタル機器にいたるまで総合的に提供することで、写真の持つ可能性を大きく広げています。

今、注目を集めているフジフィルムの「アドバンスト・フォト・システム」(APS)は、今までにない数多くのメリットを持った新システムです。まず、カメラ本体がコンパクトに。フィルムもカートリッジになってワンタッチ装てん、失敗なしの安心方式です。また、撮影絵柄が一覧できるインデックスプリントや、プリント裏面に撮影データが入られるなども新しいサービス。コンパクトに収納できるので、作品を整理し、必要に応じて取り出すのにも便利です。さらにテレビやパソコン、その他デジタル機器などと組み合わせることで、写真の楽しさが大きく広がります。

## 4つのマークでフィルム の使用状況が一目で わかる。



## 新システム APS対応フィルム



アドバンスト・フォト・システム用に開発されたISO200フィルム。  
フジカラー nexiaA

優れた粒状性、美しく自然な肌色描写、そして鮮やかな色再現で、様々なシーンを美しく描写。ISO200ならではの、使いやすさとハイシャープネスの両立を可能にしました。



新開発の乳剤によりISO100で世界最高レベルの粒状性を実現。  
フジカラー nexiaF

髪の毛一本一本までも極めてシャープに、くっきりと描写できる粒状性。さらにその色再現性は、微妙な中間色も忠実に描き出し、難しいとされる紫や黄緑も見事に発色し分けれます。



新開発の微粒子がISO400の感度と優れた粒状性の両立を実現。  
フジカラー nexiaH

ハイスピードシャッターが必要なシーンや、ストロボシーン、薄暗い状況などにもアドバンスト・フォト・システムの撮影領域を広げ、大伸ばしにも耐えるシャープな一枚を提供します。

# フィルム特集

## Konica

## コニカ株式会社

### カラーリバーサルフィルム



135サイズ24・36枚撮り / 120サイズ12枚撮り

### 風景やネイチャーフォトに威力を発揮するリバーサルフィルム。コニカクローム森羅SINRA 100 ハイグレード

今年発売されたISO100のリバーサルフィルム。クリアな発色とメリハリの効いた描写を実現。自然風景をはじめ、あらゆるシーンで威力を発揮します。



コニカカラー-LV200

コニカカラー-LV100



コニカカラー-LV400

### 誰でも高画質を手軽に得られるカラーネガフィルム。コニカカラー-LV100/200/400

色鮮やかでメリハリのある画像のLV100、様々な場面で優れた描写力を発揮するLV200、あらゆるシーンを常に鮮明に再現するLV400をラインナップ。

■各135サイズ12・24・36枚撮り



フィルムはなまものです。保存状態に注意してください。

### カラーネガフィルム

### あらゆるシーンに対応する高品質カラーネガフィルム。コニカカラー-JX100

露光アンダーからオーバーまで、優れた色再現性と安定したカラーバランスを発揮。豊かな調子と整った階調バランスが得られるISO100の高品質カラーフィルム。



■135サイズ12・24・36枚撮り



新システム対応

■135サイズ12・24・36枚撮り / 120サイズ12枚撮り / 4X5サイズ20枚入り

### シャープな画像、鮮やかな色再現。新システム対応の高画質フィルム。コニカカラー-JX400 IX240

小型カートリッジ、ワンタッチ装填、データを記録する磁気層など、様々な特徴を持つ新システム対応フィルム。小型・高感度ながら、優れた粒状性を実現しました。

### 超微粒子ですべての色を忠実に再現。プロの眼に匹敵する超高画質フィルム。コニカカラー-IMPRESA50 プロフェッショナル



プリント表現を追求するプロやハイアマチュア向けの超高画質カラーネガフィルム。ISO50で粒状性・鮮鋭性を向上。超微粒子は大伸ばしに威力を発揮します。

■135サイズ24・36枚撮り / 120サイズ12枚撮り / 4X5サイズ20枚入り

### ハイスピードも止まる、世界最高感度のカラーネガフィルム。コニカカラー-GX3200プロフェッショナル



ISO3200という世界最高感度でありながら、優れた画質特性を実現。目ではとらえきれない速い動きやわずかな光も鮮明に描写。天体撮影や超望遠に最適です。

■135サイズ24・36枚撮り / 120サイズ12枚撮り

## Kodak

## 日本コダック株式会社

### カラーリバーサルフィルム



コダクローム64

### 50年以上にわたり世界の写実家から信頼され続けるリバーサルフィルム。コダクローム 25/40/64/200フィルム

深みのある独特の色合いと、高い質感描写力で、50年以上世界の写実家から信頼され続けているリバーサルフィルム。特に64は、一般撮影用として多様な被写体に対応できます。



コダック エクタクロームダイナEX100

コダック エクタクロームダイナEX400

### ワンランク上の写真を追求するリバーサルフィルム。コダック エクタクローム ダイナEX50/100/200/400

狙った被写体を撮影者の感性のままに表現。従来のリバーサルフィルムより、ワンランクアップした写真が追求できる力量を持ったフィルムです。

### 人肌などを温かい感じに表現できるリバーサルフィルム。コダック エクタクローム パンサー100/100X

100に加えて姉妹品の100Xをラインアップ。100Xは快晴時の日陰や曇天でも人肌などが青くなるのを防ぎ、全体的に温かい感じの色が得られます。

コダック エクタクロームパンサー100



コダック エクタクロームE100S

### ディテール再現力に優れたプロ用リバーサルフィルム。コダック エクタクローム E100S/100/400フィルム

広い範囲でのディテール再現力に優れ、ハイライト部からシャドウ部までなめらかに表現。また、今までにない増感特性を持ち、広告写真の増感撮影にも適しています。

### カラーネガフィルム



新システム対応

コダック アドバンティックス200

### 高品質な仕上がりが得られるAPS対応フィルム。コダック アドバンティックス 100/200/400フィルム

今春発売されたAPS対応フィルム。先進的な乳剤テクノロジーにより、高品質な仕上がりを実現。APSカメラとの連動により、誰でも失敗のない撮影ができます。

### 妥協を許さないマニア向けに開発された超高画質フィルム。コダック エクター25/100フィルム

100はネイチャー、風景、人物などに適しています。超微粒子の極限を再現した25は、大伸ばしプリントにする場合やきめ細かな描写が求められる写真に最適です。



コダック エクター100



コダック スーパーゴールド100 コダック スーパーゴールド400

### あらゆるシーンに対応できる、優れた特性のカラーネガフィルム。コダック スーパーゴールド 100/200/400/1600フィルム

様々なシーンを想定した正確な色再現性、粒状性、広い露光ラチチュードなどの特性を保持。特に400は撮影の失敗を防げるフィルムとして、広く使用されています。

ドレスのように、イクシを着よう。



いよいよキヤノンから、新システム対応《イクシ》誕生。

カードサイズ。メタリック・デザイン。アドバンスドフォトシステム。イクシは、IX240カメラというジャンルの、まったく新しい超コンパクトカメラです。アクセサリ感覚で、いつも身につけていられるから、いままで以上に、素敵な思い出にレンズを向けられます。ドレス、スーツからジーンズまで、どんなファッションにも、どんなシーンにも、センスよくフィットする。イクシは、あなたとカメラの関係を大きく変えてしまいます。

- ◎特殊合金・SUS316の世界最小ボディ。<sup>※1</sup>◎カートリッジフィルムでワンタッチ装填。
- ◎高画質24-48mm 2倍ズームを搭載。<sup>※2</sup>◎自由に選べる3タイプのプリントサイズ。
- ◎そのほかにも、充実の高機能を搭載。<sup>※1</sup> '96年3月1日現在、ズームレンズ搭載カメラの中で、

<sup>※2</sup> 35ミリ判カメラ換算で30-60mm \*カメラについているチェーンは撮影用で非売品です。

カタログのご請求は、〒108-11 東京都港区三田3-12-15 東急三田ビル

キヤノン販売株式会社 写友缶-IXY係まで、ハガキでお申し込みください。キヤノン株式会社・キヤノン販売株式会社



カードサイズカメラ

**Canon**  
**IXY**

メーカー希望小売価格 48,000円

(リモコン・ケース付き、税別)



# 写友缶ふれあい広場

読者の皆様から寄せられた、お便り＆お写真をご紹介します。

## フォトコーナー●●●

ホームカラオケをやっていると、一緒に歌っている秘里ちゃん。マイクを握って放さないのは、パパに似たのかな。  
佐藤 理江様  
大阪府寝屋川市



これは稲の種蒔きです。私は見ただけ。  
入澤 宏臣様  
鳥取県東伯郡



1才のBirthday おもちゃを背負って涙目の僕  
「上手に撮れてる!?!」  
竹山 真由美様  
岡山県倉敷市



## お便りコーナー●●●

「余暇利用に一眼レフカメラが欲しいなー」と思っていたら、新聞の貴社通販広告にキヤノンEOS-kissがあり、値引きも良く手頃な値段。岸和田にもキタムラという名のカメラ店があり、聞いたら同系とのこと。店長に「当店は是非」と勧められ、小物も加えて手頃値で購入、アマチュアカメラマンとなりました。何分にもまったくのビギナー、写友缶を友として学び、岸和田のキタムラを今後とも利用していきたいと思っています。今後ともよろしく願い申し上げます。

大園 佳様 大阪府岸和田市

山口県の秋吉台口を出てホッと一息。土産店の並ぶ道をバス停へ急ぐ。幅50~60cmの川に沿って、人が集まっている。近づいて一枚。金魚と思ったが、これが鯉(60~30cm位)の餌タイム。ほんの数分で1匹もいなくなり、おもしろいひと時でした。画面に約80匹あります。

岡村 英一様 静岡県静岡市



## お便り＆傑作写真大募集!

このコーナーでは、皆様からの楽しいお便りや、傑作写真にコメントを添えた投稿を募集しています。掲載させていただいた方には粗品を進呈いたします。ハガキ・封書での送り先は、

〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 カメラのキタムラ  
「写友缶ふれあい広場」係まで。

お便りは、ファックス番号045-476-0778でも受け付けております。また、お近くの「カメラのキタムラ」に直接お持ちいただいても結構ですので、読者の皆様からのたくさんのご応募をお待ちしています。

## 編集後記

最近、この「写友缶ふれあい広場」に寄せられるお便りやお写真が目立って増えてきており、編集部としてもうれしさが溢れています。ただ、誌面のスペースが限られているため、皆さんの楽しいお便りや傑作写真を全部ご紹介できないのが、とても残念です。せっかくご応募いただいたにも関わらず掲載できなかった方々には、この場を借りて、お礼とおわびをさせていただきます。

ところで、キタムラの秋のフォトコンテストが、今回より「全国“秋の彩”フォトコンテスト」となりました。今までの紅葉に加えて秋の花や木の実などのモチーフでもOK。賞金総額も500万円とスケールアップいたしましたので、キタムラ店頭のパスター・チラシをご覧ください。さて、次号は12月1日発行となる冬号。特集テーマは、日本の冬の静かな情趣を象徴する「寂」(さび)です。どうぞご期待ください。

## プレゼントが当たる!クロスワードパズル

ダ	2	3	ヨ	4	ブ
5	キ			ン	
		6	ウ	7	8
9	ア	10	リ		
11	テ			12	バ
13	ト		14	パ	

〈ココのカギ〉

1. ケガがないとか問題ないという時にこういいます。
5. 一番きれいなのは十五夜です。
6. 砂浜で、涙を流しながら産卵します。
9. アトランタ五輪の女子マラソン銅メダル○○○○選手。
11. 雨が降っていること。
12. 塩焼きや味噌煮にするおいしい魚。
13. 1000キログラムは1○○。
14. 力を英語でいうと?

## 答え=

○○○○○  
(ヒント:春は花見、秋は…)

問題: クロスワードに答えて、A~Eのマスの中の言葉になります。その答えとあなたの住所・氏名・年齢・職業をハガキに書いてご応募ください。正解者の中から抽選で30名の方に、粗品を進呈いたします。あて先: 〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 カメラのキタムラ 写友缶「クロスワードパズル」係 締め切り: 11月30日(当日消印有効)

※前号の正解は「アマヤドリ」でした。当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。



▼従来のISO100フィルム



この微妙なトーンの青が思ったとおりに出ない…。そんな方に、ぜひともおすすめしたい優秀なフィルムが誕生しました。フジカラーリアアエース。ハッキリした色、淡いトーンの色、どんな色も目で見たままに写しとれます。こんどの撮影で一度お試しください。色の良さがきつと実感できます。



▲リアアACE

むずかしい青。でも撮りたい青。

FUJICOLOR  
**REALA  
ACE**



新登場

大伸しプリントで美しさがひときわ冴えるリアアACE

- ISO100クラスで世界最高水準の粒状性をさらに追求。現行と比べて約1/3の超微粒子を実現。
- 最高水準の色再現性にますます磨きをかけ、シャープネスや階調描写もレベルアップ。
- アンダー側のラチチュードを広げ、より幅広い撮影条件をカバー。

ISO100の超高画質カラープリント用フィルム ●135(35mm)36枚撮り/24枚撮り ●135(35mm)2本カードバック36枚撮り/24枚撮り、3本カードバック36枚撮り、5本カードバック36枚撮り ●120/220ロールフィルム新発売